

# 令和6年度 薬学部 別表

薬学部 1学年 前期

薬学部 1学年 後期

科目名		単位	時間数	備考
教養科目	医療サイエンス(数理学)●	1	15	2科目必修
	医療サイエンス(物理学)●	1	15	
	医療サイエンス(物質科学)●	1	15	
	医療サイエンス(生命科学)●	1	15	
	基礎コミュニケーション	1	15	必修
	健康と運動の科学★	1	16.5	
	アカデミックスキルズ	1	18	
	ドイツ語A	1	15	
	フランス語A	1	15	4科目選択必修
	中国語A	1	—	
	日本語文章論A	1	15	
	文学A	1	15	
	美術A	1	15	
	書道A	1	15	
	人間と宗教	1	15	
	ジェンダーの社会学	1	15	
	社会関係と自己	1	15	
	民主主義と政治構造	1	15	
	法学	1	15	
	哲学	1	15	
	歴史A	1	15	
	数学A	1	15	
	医療心理学	1	15	
	感染症とバイオセーフティ	1	15	
	情報リテラシー	1	15	
	療法的な音楽活動	1	15	
	感性を掘り下げる色彩と造形	1	15	
	医療人のための教養とマナー	1	15	
富士山の自然と文化	1	15		
資源植物学	1	15		
専門基礎科目	English for Healthcare Communication	1	15	必修
	薬学物理の基礎	1	22.5	
専門科目	人体の成り立ちと機能I	1	22.5	

科目名		単位	時間数	備考
教養科目	人の行動と心理	1	19.5	必修
	ヒューマニティ	1	15	
	健康とスポーツの科学★	1	15	
	Paragraph Writing	1	16.5	
	ドイツ語B	1	15	4科目選択必修
	フランス語B	1	15	
	中国語B	1	—	
	言語学	1	15	
	日本語文章論B	1	15	
	文学B	1	15	
	美術B	1	15	
	書道B	1	15	
	医療人としてのコミュニケーション入門	1	15	
	現代ジェンダー論	1	15	
	歴史遺産への招待(京都)	1	24	
	法学	1	15	
	歴史B	1	15	
	ロジカルシンキング	1	15	
	数学B	1	15	
	感染症とバイオセーフティ	1	15	
	死生観	1	15	
	現代社会学	1	15	
	国際政治学	1	15	
	療法的な音楽活動	1	15	
	ポートランド州立大学サマープログラム★	1	84	
	感性を掘り下げる色彩と造形	1	21	
	国際協力論	1	15	
	デジタルコンテンツの作成と活用	1	15	
	医療人のための教養とマナー	1	15	
	レジェンドと語る	1	15	
資源植物学	1	15		
動物解剖生理学	1	15		
専門基礎科目	チーム医療の基盤	1	15	必修
	医療統計とデータサイエンス	1	16.5	
専門科目	熱力学・化学平衡I	1	22.5	
	有機化合物の構造と性質	1	21	
	人体の成り立ちと機能II	1	22.5	
	人体の成り立ちと機能III	1	22.5	
	生命活動を担う分子II	1	22.5	
	初年次臨床体験実習★●	1	85.5	

教養科目	Freshman English	2	34.5	必修(通期)
専門基礎科目	地域医療入門	2	30	必修(通期)
	薬学化学の基礎※	2	40.5	
専門科目	医療を支える臨床薬剤師※	1	22.5	必修(通期)
	漢方薬になる動植物※	2	36	
	生命活動を担う分子I※	2	40.5	

前期必修科目数 12科目  
前期必要単位数 12単位

後期必修科目数 16科目  
後期必要単位数 16単位  
通期必修科目数 6科目/必要単位数 11単位  
最低履修科目数 34科目/必要単位数 39単位

- (註1) ★は実習・演習科目  
(註2) ●は合否科目(選択科目は全て合否のため省略)  
(註3) ※(アスタリスク)は実習・演習を含む科目

## 薬学部履修要項 別表

昭和大学学則 第12条(単位の計算方法)

授業科目の単位数は、1単位45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じて、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位として単位数を計算する。

学年	科目分類	授業形態	科目名	開講期	単位数	必修選択	対象科目
第2学年	基礎	講義	薬学英語の基礎 1	前期	1	必修	
	専門	講義	物質の状態と変化	前期前半	1	必修	○
	専門	講義	有機化合物の反応	前期前半	1	必修	○
	専門	講義	生命活動を担う分子(物質輸送とエネルギー産生)	前期前半	1	必修	○
	専門	講義	人体の成り立ちと機能Ⅲ	前期前半	1	必修	○
	専門	講義	化学平衡	前期後半	1	必修	○
	専門	講義	人体の成り立ちと機能Ⅳ	前期後半	1	必修	○
	専門	講義	薬の宝庫としての天然物	前期後半	1	必修	○
	専門	講義	生命活動を担う分子(代謝とその調節)	前期後半	1	必修	○
	専門	講義	薬の作用と生体内運命	前期後半	1	必修	○
	専門	講義	個人・集団・社会と健康	前期後半	1	必修	○
	専門	講義	微生物と感染症	前期後半	1	必修	○
	基礎	講義	薬学英語の基礎 2	後期	1	必修	
	専門	講義	物質の構造	後期	1	必修	○
	専門	講義	医薬品の検出と定量	後期	1	必修	○
	専門	講義	官能基の化学	後期	1	必修	○
	専門	講義	生命活動を担う分子 (細胞の構造、機能と情報伝達)	後期	1	必修	○
	専門	講義	生体防御反応を担う組織、細胞、分子	後期	1	必修	○
	専門	講義	生活環境と健康	後期	1	必修	○
	専門	講義	薬剤師と医薬品に係る法規範 I	後期	1	必修	○
	専門	講義	薬と疾病(悪性腫瘍)	後期	1	必修	○
	専門	講義	薬と疾病(感染症)	後期	1	必修	○
	専門	講義	薬の効き方	後期	1.5	必修	○
	専門	演習	在宅チーム医療と倫理 T B L II (学部連携)	前期前半	0.5	必修	
	専門	演習	コミュニケーション	前期後半	0.5	必修	
	専門	演習	生と死	後期	1	必修	
	専門	演習	生理から病態へ 演習	後期	1	必修	
	専門	演習	薬学基礎から薬物治療へ 演習	後期	1	必修	
	専門	演習	学修技法とスチューデントデベロップメント ※1	通期	-	必修	
	専門	演習	キャリアデザイン ※2	通期	-	必修	
	専門	実習	物質の性質・分析・製剤化と製剤試験法	前期前半	1.5	必修	
	専門	実習	医薬品の化学 実習	前期後半	1.5	必修	
	専門	実習	人体の成り立ちと機能 実習	前期後半	0.5	必修	
専門	実習	診療の流れを知る 実習	前期後半	1	必修		
専門	実習	生命体の成り立ち 実習	後期	2	必修		
合計				履修科目数35科目 (うち2科目は他学年で単位認定) 必要要件単位数34単位			

○ 対象科目(前期11科目、後期10科目):再試験受験資格判定科目、進級試験対象科目

※1 学修技法とスチューデントデベロップメントは、第2学年から履修し、第6学年において単位を認定する。

※2 キャリアデザインは、第2学年から履修し、第5学年において単位を認定する。

単位認定の必要な科目は以下の通りである。

前期必修科目数 18科目

後期必修科目数 15科目

前期必要要件単位数 17.5単位

後期必要要件単位数 16.5単位

最低履修科目数 33科目 必要要件単位数 34単位

## 薬学部履修要項 別表

学年	科目分類	授業形態	科目名	開講期	単位数	必修選択	対象科目
第3学年	専門	講義	薬学英語 1	前期	1	必修	
	専門	講義	薬剤師と医薬品に係る法規範Ⅱ	前期	1	必修	○
	専門	講義	溶液の性質	前期	1	必修	○
	専門	講義	生体分子の化学	前期	1	必修	○
	専門	講義	薬物の体内動態	前期	1	必修	○
	専門	講義	生体防御反応の応用と免疫疾患	前期	1	必修	○
	専門	講義	薬と疾病(神経・精神系疾患)	前期	1.5	必修	○
	専門	講義	薬と疾病(呼吸器系疾患)	前期	1	必修	○
	専門	講義	薬と疾病(消化器系疾患)	前期	1	必修	○
	専門	講義	臨床で用いる分析技術	前期	1	必修	○
	専門	講義	処方箋と調剤	前期	1	必修	○
	専門	講義	製剤の性質	前期	1	必修	○
	専門	講義	医薬品情報と患者情報	前期	1	必修	○
	専門	講義	薬学英語 2	後期	1	必修	
	専門	講義	製剤設計	後期	1	必修	○
	専門	講義	機器分析	後期	1	必修	○
	専門	講義	医薬品の化学	後期	1	必修	○
	専門	講義	生命活動を担う分子(ゲノム情報とバイオ医薬品)	後期	1	必修	○
	専門	講義	医薬品・化学物質の代謝反応	後期	1	必修	○
	専門	講義	薬物動態の解析	後期	1	必修	○
	専門	講義	栄養と健康	後期	1	必修	○
	専門	講義	薬と疾病(循環器系疾患)	後期	1	必修	○
	専門	講義	薬と疾病(代謝系・内分泌系疾患)	後期	1	必修	○
	専門	講義	薬と疾病(泌尿器系・生殖器系疾患)	後期	1	必修	○
	専門	講義	社会保障制度と医療経済	後期	1	必修	○
	専門	演習	薬剤師の使命	前期	1	必修	
	専門	演習	薬と疾病チュートリアル1(神経疾患)	前期	1.5	必修	
	専門	演習	薬剤師に求められる倫理観	後期	1	必修	
	専門	演習	研究倫理と統計	後期	2	必修	
	専門	演習	薬と疾病チュートリアル2(循環器疾患)	後期	0.5	必修	
	専門	演習	学部連携チーム医療PBLⅡ・在宅ケア	後期	2	必修	
	専門	演習	薬学基礎と臨床の複合演習	後期	1	必修	
	専門	演習	学修技法とスチューデントデベロップメント ※1	通期	-	必修	
	専門	演習	キャリアデザイン ※2	通期	-	必修	
	専門	実習	健康と環境 実習	前期	1	必修	
	専門	実習	調剤・患者対応入門 実習	前期	1	必修	
専門	実習	薬の効くプロセス 実習	前期	1	必修		
専門	実習	急性期医療と薬剤師 実習	後期	1	必修		
専門	実習	薬学研究入門 ※3	後期	-	必修		
合計				履修科目数 39科目 (うち3科目は他学年で単位認定) 必要要件単位数38.5単位			

○ 対象科目(前期12科目、後期11科目):再試験受験資格判定科目、進級試験対象科目

※1 学修技法とスチューデントデベロップメントは、第2学年から履修し、第6学年において単位を認定する。

※2 キャリアデザインは、第2学年から履修し、第5学年において単位を認定する。

※3 薬学研究入門は、第3学年から履修し、第4学年において単位を認定する。

単位認定の必要な科目は以下の通りである。

前期必修科目数 18科目

前期必要要件単位数 19単位

最低履修科目数 36科目 必要要件単位数 38.5単位

後期必修科目数 18科目

後期必要要件単位数 19.5単位

## 薬学部履修要項 別表

学年	科目分類	授業形態	科目名	開講期	単位数	必修選択	対象科目
第4学年	専門	講義	薬となる化合物の構造と性質	前期	1	必修	○
	専門	講義	分子・細胞から生理・病態へ	前期	1	必修	○
	専門	講義	漢方医学の実践	前期	1	必修	○
	専門	講義	日常生活と健康	前期	1	必修	○
	専門	講義	薬物送達システム	前期	1	必修	○
	専門	講義	薬と疾病(眼・耳鼻咽喉・アレルギー・血液疾患)	前期	1	必修	○
	専門	講義	薬と疾病(免疫・関節・小児・皮膚疾患)	前期	1	必修	○
	専門	講義	個別化医療	前期	1	必修	○
	専門	講義	地域医療とプライマリーケア	前期	1	必修	○
	専門	講義	薬毒物と中毒	前期	1	必修	○
	専門	講義	放射性医薬品の利用と管理	後期	1	必修	○
	専門	演習	学部連携チーム医療PBLⅢ・在宅チーム医療と倫理TBLⅢ	前期	1.5	必修	
	専門	演習	EBM演習	前期	1	必修	
	専門	演習	薬と疾病チュートリアル3(がん疾患)	前期	0.5	必修	
	専門	演習	輸液と栄養	前期	0.5	必修	
	専門	演習	実務と基礎の複合演習	後期	1	必修	○
	専門	演習	学修技法とスチューデントデベロプメント ※1	通期	-	必修	
	専門	演習	キャリアデザイン ※2	通期	-	必修	
	専門	実習	薬学研究入門※3	前期	6.5	必修	
	専門	実習	臨床実習事前学修	後期	4	必修	
	専門	実習・演習	ファーマシューティカルケアプログラム ※4	後期	-	必修	
	専門	実習	薬局実習※4	後期	-	必修	
合 計				履修科目数22科目 (うち4科目は他学年で単位認定) 必要要件単位数26単位			

○ 対象科目(前期10科目、後期2科目):再試験受験資格判定科目、進級試験対象科目

※1 学修技法とスチューデントデベロプメントは、第2学年から履修し、第6学年において単位を認定する。

※2 キャリアデザインは、第2学年から履修し、第5学年において単位を認定する。

※3 薬学研究入門は、第3学年から履修し、第4学年において単位を認定する。

※4 ファーマシューティカルケアプログラム、薬局実習は、第4学年から履修し、第5学年において単位を認定する。

単位認定の必要な科目は以下の通りである。

前期必修科目数 15科目

後期必修科目数 3科目

前期必要要件単位数 20単位

後期必要要件単位数 6単位

最低履修科目数 18科目 必要要件単位数 26単位

## 薬学部履修要項 別表

学年	科目分類	授業形態	科目名	開講期	単位数	必修 選択※6	
第5学年	専門	演習	アドバンスト薬学英語 ※1	後期	-	必修	
	専門	演習	応用薬学演習 ※1	後期	-	必修	
	専門	演習	アドバンスト薬学英会話 ※1	後期	-	自由選択	
	専門	演習	キャリアデザイン ※3	通期	0.5	必修	
	専門	演習	学修技法とスチューデントデベロプメント ※4	通期	-	必修	
	専門	実習	学部連携病棟実習	後期	1	必修	
	専門	実習	薬学研究実践プログラム※1, 5 症例研究実践コース・臨床研究実践コース・基盤研究実践コース		後期	-	選択必修
			薬学研究実践プログラムⅠ				
			薬学研究実践プログラムⅡ				
	専門	実習	学部連携地域医療実習 ※1, 5	後期	-	選択	
	専門	実習	海外における薬剤師の役割を知る※1, 5	後期	-	選択	
	専門	実習・演習	ファーマシューティカルケアプログラム※2	通期	9	必修	
	専門	実習	病院実習2	通期	12	必修	
	専門	実習	薬局実習※2	通期	10	必修	
合計				最低履修科目数8科目 (うち4科目は他学年で単位認定) 必要要件単位数32.5単位			

※1 応用薬学演習、薬学研究実践プログラム、アドバンスト薬学英語、学部連携地域医療実習、海外における薬剤師の役割を知る、アドバンスト薬学英会話は、第5学年から履修し、第6学年において単位を認定する。

※2 ファーマシューティカルケアプログラム、薬局実習は、第4学年から履修し、第5学年において単位を認定する。

※3 キャリアデザインは、第2学年から履修し、第5学年において単位を認定する。

※4 学修技法とスチューデントデベロプメントは、第2学年から履修し、第6学年において単位を認定する。

※5 選択必修科目第5-6学年「薬学研究実践プログラム」及び選択科目第5-6学年「学部連携地域医療実習」、第5-6学年「海外における薬剤師の役割を知る」、第6学年「薬剤師の臨床判断」から履修する。選択科目と選択必修科目の履修の組み合わせを表1に示す。選択科目の履修は、上限を4単位とする。薬学研究実践プログラムと選択科目を合わせ、基本的に16単位を履修する。ただし、薬学研究実践プログラムの期間外に選択科目を受講する場合、計18単位が認定される。

※6 選択必修科目は、そのプログラムより必ず1つを選択する卒業要件に算入する科目である。選択科目は、履修の有無を学生が選択する卒業要件に算入する科目である。自由選択科目は、履修の有無を学生が選択する卒業要件に算入しない科目である。

表1 選択必修科目と選択科目の履修の組み合わせについて

			選択科目の履修		
			なし	1科目	2科目
選択科目	海外における薬剤師の役割を知る	2単位	-	◇	□
	学部連携地域医療実習	2単位	-	◇	□
	薬剤師の臨床判断	2単位	-	◇	□
選択必修科目	薬学研究実践プログラム	I (16単位)	◎	◎*	-
		II (14単位)	-	◎	◎*
		III (12単位)	-	-	◎
第6学年において認定される単位			16単位	16あるいは18単位	16あるいは18単位

◇:いずれか1科目を選択

□:いずれか2科目を選択

-:なし

◎:薬学研究実践プログラムの選択

\*:薬学研究実践プログラムの期間外に選択科目を受講する場合

単位認定の必要な科目は以下の通りである。

後期必修科目数 2科目

後期必要要件単位数 10単位

最低履修科目数 5科目 必要要件単位数 32.5単位

通期必修科目数 3科目

通期必要要件単位数 22.5単位

## 薬学部履修要項 別表

学年	科目分類	授業形態	科目名	開講期	単位数	必修選択 ※5
第6学年	専門	演習	アドバンスト薬学英語 ※1	前期	1	必修
	専門	演習	応用薬学演習 ※1	前期	9	必修
	専門	演習	総合薬学演習 ※2	前期	-	-
	専門	演習	アドバンスト薬学英会話 ※1	前期	①	自由選択
	専門	演習	集中講義 ※3	後期	-	-
	専門	実習	薬剤師の臨床判断	前期	2	選択
	専門	実習	学部連携地域医療実習 I	前期	2	選択
			学部連携地域医療実習 II		4	
	専門	実習	薬学研究実践プログラム ※1, 4 症例研究実践コース・臨床研究実践コース・ 基盤研究実践コース	通期	-	選択必修
			薬学研究実践プログラム I		16	
			薬学研究実践プログラム II		14	
	薬学研究実践プログラム III		12			
合計				最低履修科目数 3科目 必要要件単位数 24あるいは26単位 ※6		

〈卒業までに修得する単位数：193.5単位以上を必要とする〉

- ※1 応用薬学演習、アドバンスト薬学英語、アドバンスト薬学英会話、薬学研究実践プログラムは、第5学年から履修し、第6学年において単位を認定する。
- ※2 総合薬学演習は、卒業に必要な単位を修得済みの学生を対象として開講する。新たな単位は付与しない。
- ※3 集中講義は、単位認定対象外とする。
- ※4 選択必修科目第5-6学年「薬学研究実践プログラム」及び選択科目第5-6学年「学部連携地域医療実習 I・II」、第5学年「海外における薬剤師の役割を知る」、第6学年「薬剤師の臨床判断」から計16単位を履修する。選択科目の履修は、上限を4単位とする。選択必修及び選択科目について、履修可能な組み合わせのパターン1~4を表1に示す。
- ※5 選択必修科目は、そのプログラムより必ず1つを選択する卒業要件に算入する科目である。選択科目は、履修の有無を学生が選択する卒業要件に算入する科目である。自由選択科目は、履修の有無を学生が選択する卒業要件に算入しない科目である。
- ※6 第5学年に「海外における薬剤師の役割を知る」を履修した場合は24単位

表1 選択必修科目と選択科目の履修の組み合わせについて

		パターン1	パターン2	パターン3	パターン4
薬学研究実践プログラム	I (16単位)	◎	-	-	-
	II (14単位)	-	◎	-	-
	III (12単位)	-	-	◎	◎
海外における薬剤師の役割を知る	2単位	-	◇	□	-
学部連携地域医療実習 I	2単位	-	-	-	-
学部連携地域医療実習 II	4単位	-	◇	□	○
薬剤師の臨床判断	2単位	-	◇	□	-
第6学年において認定される単位		16単位	14あるいは16単位	14あるいは16単位	16単位

- ◎:薬学研究実践プログラムよりいずれかを選択(必須)
- :1科目を選択
- ◇:いずれか1科目を選択
- :いずれか2科目を選択
- :なし

単位認定の必要な科目は以下の通りである。

前期必修科目数 2科目

通期必修科目数 1科目

前期必要要件単位数 10、12あるいは14単位

通期必要要件単位数 12、14、あるいは14単位

最低履修科目数 3科目 必要要件単位数 24あるいは26単位※6

自由選択科目を除く全ての授業が主要授業科目である